

北京オリンピックを思い出して下さい。何となく大成功のうちに終わったような気がしませんか？

でも、思い出して下さい。長野での聖火リレー、フリーチベットの合唱、開会式では口パク、CGの花火、偽物の”56民族”演出、その他いろいろ。

浮かんでは消える不穏な動きに心がざわめきながらも、オリンピックが成功のうちに閉会式を迎え、胸をなで下ろした人は多かったのではないですか？

その胸のざわめきの正体はいったい何なのでしょう？

日中記者交換協定のことを考えながら、中国に関する報道一つ一つの行方を追いかけてみて下さい。何かが見えてくるかもしれませんよ。

ここまで読んできて、あなたはこう思うでしょう。

『日本のテレビ局が中国や韓国に乗っ取られているって、やっぱりわかには信じられないよ。』

では、はっきり言います。実は日本人の為のテレビ局はもともと存在しないのです。

『え？日本のテレビ局は日本人のものじゃないの？』

実は、現在ある日本のテレビ網は戦後、アメリカのGHQが日本人を洗脳するために作り上げたものなのです。

『アメリカが日本人を洗脳？どうしてそんなことをしなくてはいけないの？』

理由はたくさんありますが、分かりやすいのを一つ話しましょう。日本は世界で唯一、原爆を落とされた国です。落としたのは皆さんご存知の通りアメリカです。でも、日本人は原爆投下についてアメリカ人を攻め立てたことはありますか？また、原爆のことでアメリカに悪いイメージを持っている人はいますか？いないでしょう？

そう、これこそ洗脳のたまものなのです。

戦後、日本人が敵国に対して反感を抱かぬよう、再び戦争を始める気力を失わせるようにするため、教育（洗脳）が必要でした。そして、作られたのが現在のテレビ網なのです。

テレビは始めから日本人のために存在しているものではないのです。だから、いとも簡単に中国や朝鮮の手に落ちたのでしょう。

【テレビの闇3】政治への介入

最近、お笑い芸人がニュースや報道バラエティの司会を務める番組が増えましたね。

『お笑い芸人って頭がいいんだね。』

確かに彼らは頭が良く、しゃべるのも上手です。でも、ちょっと待って。だからといってお笑い芸人が政治を語れるほど政治って簡単なものなのでしょうか。本来なら、報道番組ではその道の専門家を呼び、より正確で高度な情報を伝えることが適切なはずですよ。

『専門家の解説なんて難しすぎてわからないよ。』

そう、ほとんどの視聴者は政治の話などよくわからないのです。だからこれらの番組では視聴率のとれそうにない専門家はいちいち呼んだりしないのです。しゃべるのが上手なお笑い芸人に面白おかしく話してもらったほうが視聴率は稼げるのですから。

『お笑いの報道バラエティーのおかげで、政治が身近になったよね。』

政治が身近になったのではありません。文句が付けやすい事や、感情に訴えたら盛り上がりそうなことばかりを放送しているに過ぎません。

《産む機械》《後期高齢者》《漢字の読み間違い》《定額給付金》

ね。難しい説明抜きで、みんなが盛り上げられるような、身近で文句のつけやすい題材ばかりでしょう？これらは、マスコミにとって良いネタなのです。逆に、難しい経済や外交の話などはバラエティーでは受けないからしないのです。例え重大な内容であってもです。